

千葉県八街市教育委員会

# 近い将来八街市を支える 人材を育てる教育の推進

～千葉工業大学との包括的な連携協定による実践～

## はじめに

千葉県八街（やちまた）市は県北部のほぼ中心に位置し、人口約7万人弱の都市です。東京都心から50km圏内、成田国際空港からは10kmの位置にあります。市立の園及び学校の数、幼稚園3園、小学校9校、中学校4校であり、約4,000人の子どもが通っています。

「八街」という名称は、牧場（まきば）開墾の順序によって命名された字名に由来します。明治新政府は、難民・窮民対策事業として下総の牧場であった土地の農地開拓を進め、8番目の開墾村として「八街」が誕生しました。明治30年、鉄道が開通したことにより、この八街には豊富な経験を持つ農民たちが数多く集まり、北総大地の開墾は急速に進み、広大な畑地に様々な作物が植えられるようになりました。現在、市街地の周辺には里山や田畑が広がり、豊かな自然が残されています。落花生の生産量が全国1位として広く知られています。

八街市教育大綱（平成31年3月策定）には、次のような基本理念を掲げ、目指す教育の振興に関する施策の大綱を示しています。

次代を担う人々が、八街で生まれて育ったことを誇りとし、健やかに成長していくため、市民一人一人が教育に対する理解と関心を深め、学校・家庭・地域が連携し、望ましい教育環境をつくる。

本市では、平成9年度より、全国に先駆けて「幼小中高連携教育」を推進してきました。「学校改善」「14年間を通した継続指導」「家庭や地域との連携」を3本柱に、そ

れぞれの校種のつながりを活かして「生きる力」の育成を目指しています。この中で育まれる「確かな学力」こそが、連携教育の駆動力（エンジン）となっていることを強く意識して取り組んでいます。



文部科学省が示している第3期教育振興基本計画には、子どもたちが将来生きる社会として、「超スマート社会（Society 5.0）時代の到来」や「人生100年時代の到来」という激動の時代が予想されています。この中に示されているとおり、人口減少や高齢化の進展は本市でも大きな課題になっています。

これらの到来や喫緊の課題に向け、八街市教育委員会では、近い将来八街市を支える人材づくりの推進のため、さまざまな施策を展開しています。「令和時代の新しい八街の教育」と題し、学校教育の改革プランについて4つの柱に整理して議論を重ねています。また、令和2年度には「八街市教育センター」が独立し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の中心的な役割を担い、新学習指導要領の着実な実施に向け、現場の先生方の支援を推進しています。

4つの柱の中の一つである「学びのモデルチェンジ」では、目指す児童生徒像を『答えのない課題に自分なりの答えを創造していく八街っ子』とし、ICT教育の充実や大学や企業のさまざまなノウハウを積極的に導入することなどを手立てとしています。

この度、八街市はこのような背景に基づき、課題解決の手立ての一つとして、千葉工業大学との包括的な連携に至りました。

## 1. 包括的な連携に関する協定について

八街市と学校法人 千葉工業大学（所在：千葉県習志野市）は令和元年11月7日（木）、教育や文化振興などについて包括的な連携に関する協定を結びました。

本協定は、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的として、地域が抱える課題解決において、未来の技術者を育てるために小中学生向け各種教室の開設や学習指導要領の改定に伴うICT教育への支援を一層推進することに合意したものです。

### (1) 協定締結式（於：八街市役所）について

#### ■ 概要 ■

協定書名 「八街市と学校法人 千葉工業大学との包括的な連携に関する協定」

締結日 令和元年11月7日（木）

目的 八街市と千葉工業大学が広範囲な分野で相互に人的資源等を活用すること

参加者 八街市長・副市長・教育長等  
理事長・学長・常務理事・副学長等

内容

主に次の内容について連携・協力を推進する

- 1 教育、文化及びスポーツの振興に関すること
- 2 ICT（情報通信技術）の活用に関すること
- 3 人材育成に関すること
- 4 まちづくりに関すること
- 5 地域経済活性化に関すること
- 6 その他必要な事項に関すること

八街市は、千葉工業大学の持つロボットや宇宙研究などの先端技術のほか、学生の力を生かしたまちづくりに取り組む一方、大学側は学生の教育の場などとして活用する狙いがあります。同様な協定の締結は、県内の自治体では11例目になります。



(写真) 北村市長と瀬戸熊理事長が協定書に署名を行いました。

八街市役所で行われた締結式で、北村新司市長は、「連携は願ってもない機会。八街の子どもたちが、近い将来、市を支える人材になることを願っている。八街市は人口減少が始まりつつある。そのような中で市役所全庁を上げて将来の八街の望ましい姿を考え、いかに活性化を図るかを真剣に模索している。そのひとつの方策としたい。」と挨拶をしました。一方、千葉工業大学の瀬戸熊修理事長は「地域共生や地方創生の中、地元と協力してやっていきたい。中身のある協定になるように、互いに意見を言い合える関係を築いていきたい。」と語りました。

### (2) 千葉工業大学から温かい心遣い

～コロナ禍に、マスク等の寄贈を受けました～

連携協定を結び、今後どのような活動ができるか担当者レベルでの協議が始まった頃、新型コロナウイルスの感染拡大も始まりました。感染症対策のための臨時休業が続き、本市では、令和2年5月下旬から分散登校を開始し、段階的に学校を再開しました。



そんな中、全国的に品薄になり学校でも必要数を確保するのが困難になっていた不織布マスクを千葉工業大学が寄贈してくださいました。

また、不安な中での登校再開にあたり、児童生徒に少しでも前向きな気持ちで学校に通ってもらおうと、SNSなどで話題になっていた「富士山消しゴム」もいただきました。



(写真) 寄贈式の様子 大学職員から北村市長へ手渡した。

約3か月ぶりに登校することができた際に、市内の全児童生徒に1個ずつ配付しました。受け取った子どもたちは物珍しそうに眺めながら、「再開した学校で楽しく勉強できる」と語りました。消しゴムは、字を消して角が取れると、雪を被った富士山の形になるそうです。消しゴムの開発は千葉工業大学デザイン科学専攻卒の学生が行ったことも児童生徒には伝えられ、各学校から、感謝のメッセージボードなどが寄せられ、千葉工業大学へお礼として届けました。

## 2. 最先端技術に触れる特別授業の実施

### (1) 未来ロボット技術研究センター (fuRo) との特別授業

- 開催日 令和3年1月25日 (月)
- 内容 「ロボット技術の現状と将来の展望」
- 対象 市内中学生
- 形態 オンライン会議システム

八街市の全ての中学校で、高度なロボット技術をもつ千葉工業大学未来ロボット技術研究センター (fuRo) の、先川原 正浩室長を講師に迎えてオンライン授業を行いました。

生徒たちは、さまざまな分野で活躍し進化を続けるロボットを紹介する映像を見ながら、将来的な取り組みや可能性について学びました。

市内に4つある中学の1、2年生約1,000人が授業に参加しました。インターネットによるテレビ会議システムを活用し、各教室をテレビモニターでつないで、遠隔 (リモート) 授業を行いました。



(写真) リモート授業の様子

ロボット研究の第1線で活躍している先川原室長は、世界中のロボットを紹介しながら、最先端の研究秘話や開発エピソードを動画とともに紹介しました。

一方で、CGによる偽ロボットの映像を紹介し、便利なネット社会などの「情報」を鵜呑みにする危険性を示唆しました。ロボット研究に長年携わってきた当事者ならではの見解として「自分の頭で考え、本当に必要かどうか判断して」と呼びかけました。

授業を振り返り、参加した生徒からは「ロボットについて知らないことがたくさんあった。正しい知識を身に付けていると思った。」「身体が不自由な方のために開発されたロボットなどを知って興味が湧いた」などの感想が寄せられました。



(写真) オンライン上での質疑応答、先川原室長と中学生の交流

## (2) 惑星探査研究センター (PERC) との特別授業

○開催日 令和3年5月26日(水)

○題目 「皆既月食を観察しよう!」

○対象 市内小中学生と保護者

○形態 YouTubeライブ配信

月や星の観察といった天文についての単元では、子どもに直接指導できず学習指導に困難さを感じている教員は多くいます。千葉工業大学の持つ宇宙研究の先端技術に触れ、子どもたちの興味・関心を高めたいと機会を模索していました。そこで、八街市と八街市教育委員会は、皆既月食が国内各地で3年ぶりに観測されることに合わせて、八街市内の小中学生に向けたオンラインによる特別講座を開催しました。今回の講座「皆既月食を観察しよう!」は千葉工業大学の持つ宇宙研究の先端技術に触れる機会として企画しました。千葉工業大学惑星探査研究センター (PERC) の秋田谷 洋 上席研究員を講師に招きました。

八街市・特別観望会  
オンライン Live中継配信  
**皆既月食**  
を観察しよう!

八街市・八街市教育委員会\*  
千葉工業大学 惑星探査研究センター (PERC)  
上席研究員 秋田谷 洋 氏  
による解説があります。

期日 令和3年5月26日(水)  
時間 19:00~20:00  
参加費 無料 対象 市内小・中学生と保護者

5月26日、2021年で最も大きく見える満月で皆既月食が起こります。明るく大きい満月が赤銅色に染まる満月に変化しながら様子を観察してみましょう。  
Live中継では、惑星探査が専門の秋田谷先生による解説をお送りします。  
スマートフォンやPC端末を片手に、夜空の不思議な天体現象を見てみませんか?

方法 八街市教育センターHP(特設ページ)からURLにアクセス  
八街市教育センター  
YouTubeからライブ配信



本講座は動画投稿サイト「YouTube」の八街市教育委員会公式チャンネルで、午後7時から1時間ほどライブ配信しました。

惑星探査研究センター (PERC) のある千葉工業大学津田沼キャンパスとオンラインでつないだほか、八街市教育委員会職員が八街市総合保健福祉センター屋上から市周辺の上空を撮影しながら行いました。

今回の月食では、地球と月の距離が近づき大きな満月になる「スーパームーン」と重なったこともあり、観測に期待が高まりましたが、市周辺の上空は厚い雲に覆われ、珍しい天体ショーは見ることはできませんでした。250人を超える参加があり、天文シミュレーター (国立天文台開発、Mitaka) を使った解説を通して、宇宙が織りなす不思議な現象について学びました。チャット欄には、「皆既月食見たかった。残念」などの感想、驚きや感動の声などが寄せられました。

なお、当日の配信をご覧になりたい方は、動画投稿サイト「YouTube」の八街市教育委員会の公式チャンネルからご視聴いただけます (左記QRコード参照)

## 3. 今後の展望

千葉工業大学の研究領域は多種多様で、時代のトレンドに注目した研究がなされていることで有名です。特に、昨年12月、惑星探査研究センターが観測機器のほぼすべての開発に参画した小惑星探査機「はやぶさ2」が地球に無事帰還したことはメディアで大きく特集されました。このような唯一無二の研究を行う科学者の話を聞く機会は、小中学生ひいては市民にとって意義深い経験になると考えています。コロナ禍が収束した際には、千葉工業大学の豊富な教育資源を活用し最先端にふれる「学びの場」の提供を、学校教育のみならず、図書館や公民館が中心となって行われる生涯学習まで広げ、教育委員会が一丸となって望ましい連携の在り方を構築していきます。